

# ダンジョン&ドラゴン 2

2006(平成18)年12月17日鑑賞(ユウラク座)

★★★★



監督＝ゲリー・ライブラー／出演＝マーク・ダイヤモンド／クレメンシー・バートン＝ヒル／ブルース・ペイン／エリー・チドゼイ／スティーブン・エルダー／ルーシー・ガスケル／ティム・スターン／ロイ・マースデン (AMG エンタテインメント配給／2005年アメリカ、イギリス映画／105分)

…… RPG (ロールプレイングゲーム) によるファンタジー世界の映像化「パート2」だが、サッパリわからない登場人物とややこしいストーリーを理解するのは、それだけで大変……。同じドラゴンでも、『エラゴン 遺志を継ぐ者』の雌竜は愛嬌があり善玉だったが、こちらの黒竜は姿も不気味な悪玉……。もっとも、『ロード・オブ・ザ・リング』『ナルニア国物語』『エラゴン 遺志を継ぐ者』など、これだけファンタジー映画が続くといいい加減ウンザリ……？

## RPG とは？ テーブルトーク RPG とは？

パンフレットによれば、RPG とはロールプレイングゲームのこと。また、テーブルトーク RPG とは、1人のゲームマスター (D&D ではダンジョンマスター) と呼ばれる役割の者が用意したダンジョンやストーリーに、他数名のプレイヤーがそれぞれに作成したキャラクターで参加し、その冒険を実際に体験するゲームとのこと。他方、1974年にアメリカの TSR 社から発売された『ダンジョンズ&ドラゴンズ (Dungeons&Dragons) /略称 “D&D”』は箱に入った3冊の冊子であり、『指輪物語』などにみるファンタジーの世界を実際に冒険するべく生まれたテーブルトーク RPG であるとのこと。そんな大型の RPG が映画化されたのが2000年の『ダンジョン&ドラゴン』で、本作はそれに続くパート2とのこと。

と言われても、私にはほとんどわからないことだらけだが……。

## 🎬『エラゴン 遺志を継ぐ者』との相違点は……？

この『ダンジョン&ドラゴン2』の5日前に観たのが、『ロード・オブ・ザ・リング』や『ナルニア国物語』と同じようなファンタジー小説を映画化した『エラゴン 遺志を継ぐ者』(06年)だった。『エラゴン 遺志を継ぐ者』と『ダンジョン&ドラゴン2』に共通しているのは、登場人物やストーリーがややこしく、十分整理しなければなかなかその映画を理解できないこと。他方、全く違うのは『エラゴン 遺志を継ぐ者』は公開劇場が多く、宣伝に大金をかけているため試写会場はほぼ満席だったのに対し、この『ダンジョン&ドラゴン2』はユウラク座1館のみの公開で宣伝費もかけてないから、席はガラガラだということ。

『エラゴン 遺志を継ぐ者』はそれだけ力を注いだ話題作であるうえ、第1部としてつくられ、その後第2部、第3部が予定されているため、私はかなり詳しく登場人物や前提事実を整理して評論したが、その作業はかなり疲れるもの……。したがって、あまり世に知られていないこの『ダンジョン&ドラゴン2』についてはそれはかなり省略し、いくつかのポイントだけの評論で済ませたい。

## 🎬主人公はベレク、悪役はダモダール

この映画の主人公は、イシュミール国の宰相で元近衛兵隊長のベレク(マーク・ダイヤモンド)。彼は勇敢で統率力を持ち人望が厚いという、よくあるパターンの主人公。その妻メローラ(クレメンシー・バートン=ヒル)は、<sup>メイジ</sup>魔術師。したがって、ただ1人悪の魔術師プロフィオンの弟子だったダモダール(ブルース・ペイン)と魔術で対抗できる人材。第1部でも登場したというダモダールは、師から呪いをかけられて死んだらしい。ところが、第2部ではこのダモダールが再度登場し、その恨みから、ハース山の洞窟に眠る黒<sup>ブラックドラゴン</sup>竜を復活させて、イシュミール国を滅ぼそうとしているというのが大問題。したがって、物語はこのベレクとダモダールの対決を軸に展開していくことに……。

## 🎬5人の勇者たちは……？

ベレクがダモダールの企てを阻止するためには、ダモダールが既に手に入れた

とされる黒竜を呼び起こすファラジュアの<sup>オーブ</sup>宝珠を取り戻さなければならない。国王から、黒竜が復活する最初の新月までにファラジュアの宝珠を取り戻すよう命じられたベレクは、①女バーバリアンで荒っぽい性格ながら強い力を持つラックス（エリー・チドゼイ）、②知恵を持つオバドハイの神官ドリアン（ステイブン・エルダー）、③<sup>カイザード</sup>エルフの女魔術師オーマリン（ルーシー・ガスケル）、④闇の世界を知る<sup>ローグ</sup>悪党のニム（ティム・スターン）を含めた5人の勇者の力でその任務を果たすべく出発したが……。

## 待ち受けるさまざまな危機は、まさにゲーム感覚……

5人が向かう先は、マレクの納骨堂にある「透視の水槽」やカートの近道となる「心臓刈りの森」などだが、途中には心臓刈りの森に埋葬されている男クレックスやダモダールが放った怪物・山賊などが次々と現れてくるから大変……。このように、パンフレットとつき合わせながら1つ1つ復習しなければ到底わからないような、はじめて聞く名前がてんこ盛り。したがって、ゲーム感覚でワイワイこれを楽しむのはいいのだろうが、文字や文章でその評論をするのは、いい加減ウンザリ……。

## 遂にブラックドラゴンが登場、フィナーレへ……

悪の魔術師ダモダールと闘うべく冒険の旅を続ける5人の勇者たちからは、1人また2人と犠牲者も……。やっと「ファラジュアの宝珠」を奪ったベレクは、仲間を残してイシュミールの城に戻ったが、ここでまた、ダモダールと手を結んだクレックスが、メローラの師オベロン卿（ロイ・マースデン）になりすまして、「ファラジュアの宝珠」を奪い返すことに成功。そして、遂に「ファラジュアの宝珠」を手にしたダモダールは黒竜を呼び起こすことに……。

3000年前にファラジュアという地獄を支配していた巨大な黒竜の姿は、『エラゴン 遺志を継ぐ者』に登場した愛敬のある(?)雌ドラゴンに比べると、かなりグロテスク……。そんな黒竜に対して、ベレクは勇敢に剣を持って、また、死に直面したメローラは最後の力を振り絞りながら魔術によって闘うが、さてその結末は……？

2006(平成18)年12月18日記